

有料老人ホーム激戦区といわれる東京都目黒区で04年来運営を続けてきた「テンダーファイブ八雲」は9月1日、(株)キノシタライフ(東京都新宿区)に運営が引き継がれ、「リアンレーヴ八雲」として再スタートを切った。

元の事業主体である(株)テンダーファイブが4月に民事再生手続き開始を申し立て(その後、再生手続きは廃止され、破産へ移行)したことによるもので、一連の事業承継にあたり、高齢者住宅に特化したアセットマネジメント(AM)、アドバイザー事業などを展開するリエゾン・パートナーズ(株)(東京都港区)が、事業再生を行なった。所有権は

信託受益権化されており、リエゾン・パートナーズは、SPC(合同会社)からのAM業務として受託。候補とした数十社の有料老人ホーム事業者から、現入居者が従来通り住み続けられることを大前提として「中長期的に安定した運営が継続できること、再生を実現するため状況に応じた柔軟な対応が可能なこと」(同社・秋元二郎社長)などの条件を満たす複数の事業者から、最終的にキノシタライフと交渉にあたり、合意に至った。

同社の案件では「アズハイム横浜上大岡」(横浜市港南区)に続き2件め。同社では、「今後“救済型AM”として力を入れていく」(同)としている。

リエゾン・パートナーズ 有料老人ホームの “救済型AM”を実行

キノシタライフが事業継承

